



紅葉で彩られた秋の郷土資料館



大手門のない開館直前の郷土資料館



建設中の郷土資料館（昭和56年）

## 第1の価値 歴史の風合い漂う建築物

昭和56年9月1日、片倉町に郷土資料館がオープンしました。

その外観は、明治時代、登別に移住した仙台藩白石（現在の宮城県白石市）片倉家の居城『白石城』をモチーフとしています。

館内に据えられた片倉小十郎景綱の鎧・兜（紺糸絨黒胴・2ツビ写真）をはじめとする展示とも調和し、歴史のにおいを漂わせます。

また、春の桜、夏の緑、秋の紅葉、冬の雪など、登別の四季が彩る郷土資料館のたたずまいは、訪れる方を歴史の散歩へと誘います。

## 第2の価値 貴重な歴史資料

郷土資料館のオープンにより、これまで市立図書館などで保管されていた明治・大正時代の農機具や片倉家の甲冑、幌別鉦山で使われていた掘削機械などの歴史資料が、目の目を見ることになり、いつでも市民の方が、登別の歴史を学ぶことができるようになりました。

### 収蔵資料が指定文化財に

平成5年には収蔵資料の『明治二  
年以降片倉家北海道移住顛末』、平  
成10年には『黒澤家史料』が市指定

文化財になりました。いずれも明治時代に登別へ移住した武士の生活を  
知ることができる貴重な資料です。

10月には特別展として、これらの資料の原本を公開します。

※詳細は、9ページで紹介します。

### アイヌ文化の展示

平成15年、登別出身で『アイヌ神  
謡集』を著した知里幸恵さんの生誕  
100年にあたるこの年、アイヌ文化の  
展示スペースを拡張して、特設展示  
場を開設しました。

幸恵さんの弟で、アイヌ語学者の  
知里真志保さんの手帳の公開や、ご  
家族から寄託を受けた所持品の展示  
など、内容を充実させ登別のアイヌ  
文化を世に伝えていきます。

### 特別展の開催

郷土資料館では、常設展示だけで  
は味わえない収蔵資料の魅力を伝え  
るため特別展を開催しています。

平成6年には、初めての特別展  
『昔の弁当』を開催。弁当箱に本物  
のおかずを入れ当時の雰囲気をかも  
し出しました。

そのほかにも、幌別鉦山や登別化  
石林、縄文土器、カメラなどさまざ  
まなテーマで実施してきました。

昨年度も、新資料展『はじめまし  
て！』も実施するなど郷土資料館の  
新たな魅力を伝えて続けています。

ひな人形や五月人形、こいのぼり  
などの季節展示なども来館者から好  
評を得ています。



特別展『昔の弁当』



平成10年2月10日指定



平成5年9月2日指定

市指定文化財『黒澤家史料』（左）、『明治二年以降片倉家北海道移住顛末』